## 名称　オンジ

**他名等**　イトヒメハギ
**部位等**　根（遠志<オンジ>）
**備考**
**学名（科名）** *Polygala tenuifolia* Willd. ひめはぎ科(Polygalaceae)　ヒメハギ属
**基原植物和名等**　オンジ（イトヒメハギ）

**医薬品としての使用実態があるか**　Yes　局方
210 処方中の配合処方：4（加味温胆湯、加味帰脾湯、帰脾湯、人参養栄湯）
**毒性データ（LD50 等）**　RTECS に無し。
**同属植物**
*Polygala fruticosa* からはフルティノン A (frutinone A; antifungal activity against *Cladosporium cucumerinum*)、*P. polygama* からはポドフィロトキシン(podophyllotoxin; antitumour, antimitotic, cathartic, and antiviral activities)、*P. macradenia, P. paena* からは 4'-デメチルデオキシポドフィロトキシン(4'-demethyl- deoxypodophyllotoxin; antimimotic, antileukaemic and antitumour activities)、*P. polygaena* からは 4'-デメチルポドフィロトキシン(4'-demethylpodophyllotoxin; antitumour, antimimotic and cathartic activities)、*P. senega* からはセネギン II (senegin II; expectorant activity)、α-スピナステロール(α-spinasterol)が報告されている。
**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか**　No
**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか**　No
**主要な二次代謝産物等**
根にオンジサポニン A~G、3-, 4-, 5-トリメトキシケイヒ酸、キサントン誘導体などを含む。日本産セネガ根の成分と類似することが明らかとなっている。
**主要な生理活性**
温浸液はハトの気道分泌を亢進し、エキスはラットに抗浮腫作用、利尿作用を示し、マウスの潰瘍形成を抑制することが報告されている。去痰薬、気管支炎、気管支喘息、強壮薬として各種処方に配合される。またオンジ末、オンジシロップの製造原料とする。
**重要文献**
牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition
**その他注意すべき点**
Botanical Safety Handbook Class: 2d – contraindicated in ulcers and gastritis.
The Complete German Commission E Monographs p.203
**評価：B**
局方に収載されている。しかし、潰瘍と胃炎に禁忌があり、同属植物に劇物 podophyllotoxin（100 mg/kg , mouse, oral）の含有が知られているものの、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

## 名称　カイソウ（海葱）属

**他名等**

**部位等**　鱗茎（海葱＜カイソウ＞）

**備考**　カイソウ（海草）の全藻は非医

**学名（科名）** *Urginea martima* Baker (= *Scilla maritima* L.), *U. depressa* ゆり科(Liliaceae)　カイソウ属

**基原植物和名等（英）** Squill, Sea-onion

**医薬品としての使用実態があるか**　No?

**毒性データ（LD50 等）**

スキラレン A (scillaren A) LD$_{50}$ intravenously in cats 0.143 mg/kg body-weight

スキリロサイド(scilliroside) LD$_{50}$ orally in male rats 0.7 mg/kg body-weight

ヘレブリン(hellebrin) LD$_{50}$ orally in guinea-pigs 0.85 micromol/kg body-weight i.e. 0.62 mg/kg body-weight

**同属植物**

*U. maritima* は少なくとも 6 種からなる集合体である。

**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか** Yes

含む場合その化合物は

*U. maritima*: scillaren A and scilliroside

*U. depressa*: hellebrin

**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか**　No

**主要な二次代謝産物等**

鱗茎にスキラリン、スキリピクリン、スキリン、スキラレン、スキロサイド、シニストリン、プロスキラリジン、スキリトキシン、スキリシアノサイドなどを含む。

**主要な生理活性**

スキラリンはジギタリス類似の心臓毒作用を示し、スキリピクリンも類似するが作用はやや弱い。新鮮な鱗茎は局所刺激作用であるが、乾燥するとその刺激作用は減少する。海藻は少量で去痰、利尿作用があるが大量服用すると延髄に直接作用して嘔吐、血圧亢進、拍動減少などを起こす。西洋民間では利尿、強心薬として心臓衰弱、浮腫、水腫などに用いられるほか、新鮮な鱗茎を殺鼠剤に用いられるが、日本ではほとんど使用されておらず、もっぱら観賞用として鉢物は花壇で栽培されるだけである。

**重要文献**

牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

Kopp, B. *et al.*, *Phytochemistry* **42,** 513-522 (1996)

Iizuka, M. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* **49,** 282-286 (2001)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs p.214

評価：**A**

scilliroside など有毒なブファジエノリド（強心配糖体）数種を含む。

名称　カイトウヒ

他名等

部位等　樹皮（海桐皮<カイトウヒ>）

備考

学名（科名）*Erythrina variegata* L. *var. orientalis* (L.) *Merr.* (=*E. indica* lam.)　まめ科(Leguminosae)　デイゴ属

基原植物和名等 デイゴ（デイコ）

医薬品としての使用実態があるか　Yes

**毒性データ（LD50 等）**

**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか**　Yes

樹皮に以下の化合物が含まれる。

erysopine: LD50 = 18 mg/kg (mouse, oral)

erythraline: LD50 = 80 mg/kg (mouse, oral)

erysodine: LD50 = 155 mg/kg (mouse, oral)

erysotrine（毒性データなし）

**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか**　No

**主要な二次代謝産物等**

樹皮にはアルカロイドのエリトラリンが含まれるほか、有機酸、葉にはアルカロイドのレティキュリン、ノルオリエンタリン、dl-スクレリン、コレキシミン、エリビジンなどを含む。種子にはヒパホリンおよび有機酸を含む。

オサジン osajin

**主要な生理活性**

樹皮の水浸液は皮膚真菌に対して抑制作用があり、またこの属の植物はブドウ状球菌に対して抑制作用がある。樹皮は消炎、鎮痛薬として、下痢、リウマチによる痛み、歯痛、疥癬、腰膝痛や打撲による痛みなどの治療に用いられる。

**重要文献**

牧野和漢薬草大図鑑

Ghosal, S. *et al.*, *J. Pharm. Sci.* **61,** 1274 (1972)

Chawla, A.S. *et al.*, *Planta Medica* **54,** 526-528 (1988)

**その他注意すべき点**

Phytochemical dictionary 2nd Edition　無記載

Botanical Safety Handbook, Class 1

The Complete German Commission E Monographs　無記載

**評価：A**

erythraline など有毒なアルカロイドを含む。

## 名称　カガミグサ

**他名等**

**部位等**　根（白蘞<ビャクレン>）

**備考**

**学名（科名）** *Ampelopsis japonica* Makino (= *A. serjaniifolia* Bunge) ぶどう科(Vitaceae)　ノブドウ属

**基原植物和名等**　ビャクレン、ヤマカガミ

**医薬品としての使用実態があるか**　Yes

解熱、解毒、鎮痛に、白蘞 1 回量 3~10g に 300ml の水を加え、1/3 量になるまで煎じ詰めたものを服用する。消炎には粉末にしたものを水で練り、幹部に貼布する。

<処方例>白蘞散（聖済総録：白蘞、黄連、龍骨、赤石脂、烏賊、魚骨）、白蘞散（聖恵方：白蘞、甘草、玄参、木香、赤芍薬、川大黄）、白蘞散（証治準縄：白蘞、黄柏）などがある。

**毒性データ（LD50 等）**

**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか**　No

**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか**　No

**主要な二次代謝産物等**

oleanolic acid glycosides, chondrillasterol 3 $\beta$ −D−glucopyranoside

**主要な生理活性**

白蘞の水製エキスは試験管内で、数種の皮膚真菌に対して抑制作用がみられ、解熱、解毒、鎮痛、収斂、消炎などの作用を示す。白蘞は収斂、解熱、鎮痛、解毒、消炎薬として各種のでき物、打撲傷、湯による火傷などに用いられる。

**重要文献**

牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary $2^{nd}$ Edition

**その他注意すべき点**

中国の貴州、四川ではコイケマ（*Cynanchum wilfordi* Hemsl. かがいも科　カモメヅル属）の根が白蘞として出回ることがある。

ウキクサ（*Spirodela polyrhiza* (L.) Schleid.）の古名としてカガミグサという名称が使われた。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

**評価：E**

わが国では使用実態がなく、毒性を示すデータがない。ただし、生薬白蘞の基原植物は中国で混乱があるため、今回の措置はあくまで植物カガミグサのみに関するものであることに留意すべきである。

名称　カゴソウ

**他名等**　ウツボグサ
**部位等**　全草　（牧野和漢薬草大図鑑では花穂（夏枯草<カゴソウ>））
**備考**
**学名（科名）** *Prunella vulgaris* L. var. *lilacina* Nakai しそ科(Labiateae)　ウツボグサ属
**基原植物和名等**　ウツボグサ

**医薬品としての使用実態があるか**　Yes　局方収載
口内炎、扁桃炎には1回量3~5gに300mlの水を加え、半量になるまで煎じ詰め、かすを除いて随時うがいをする。またこの煎液を脱脂綿でこして洗顔すると結膜炎に効果がある。腎臓炎、膀胱炎には1日量8~10gに水300mlの水を加え、半量になるまで煎じ詰め、食間3回に分けて服用する。また茶剤として土瓶でさっと煮出してのんでもよい。
**毒性データ（LD50等）**
**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか** No
含む場合その化合物は アルカロイド様物質
**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか** No
**主要な二次代謝産物等**
トリテルペノイドのウルソール酸とその配糖体のプルネリン、樹脂、苦味質、タンニン、脂肪、アルカロイド様物質、硫酸カリウム、多量の塩化カリウムを含む
**主要な生理活性**
弱い血圧降下作用、利尿促進作用、強い抗菌作用、腸管蠕動の増強作用、子宮収縮作用などのあることが知られている。利尿、消炎剤として腎臓炎、膀胱炎、口内炎、水腫、扁桃炎、淋疾、結膜炎などに用いられる。
ウルソール酸には cytotoxic and antileukaemic activities

**重要文献**
牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2$^{nd}$ Edition
**その他注意すべき点**
Botanical Safety Handbook, Class 1
The Complete German Commission E Monographs 無記載

**評価：B**
医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

## 名称　カシ

**他名等**　ミロバラン
**部位等**　果実（訶子＜カシ＞）
**備考**
**学名（科名）** *Terminalia chebula* Retz. シクンシ科(Combretaceae)　モモタマナ属
**基原植物和名等**　ミロバラン（ミロバランノキ）

**医薬品としての使用実態があるか**　Yes　局外生規
収斂、止瀉、止血、鎮咳に、訶子 1 日量 3~9g を煎じて服用する。
210 処方中の配合処方：1（響声破笛湯）
その他、訶子飲（済生方：訶子、杏仁、通草）、訶子湯（宣明論方：訶子、桔梗、甘草）、訶子皮散（蘭室秘蔵：御米穀、訶子、陳皮、乾姜）などがある。
**毒性データ（LD50 等）**　LD50 = 175 mg/kg (mouse, i.p.)
**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか**　No
**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか**　No,
**主要な二次代謝産物等**
果実にチェブリン酸、チェブラギン酸、没食子酸、エラグ酸、ルテオリン酸、センノサイド A、チェブリン、タンナーゼ、ポリフェノールオキサイド、樹皮にβ-シトステロール、没食子酸、カテコールなどを含む
コリラギン corilagin、ペンタガロイル-β-D-グルコース pentagalloyl-β-D-glucose
**主要な生理活性**
訶子の煎液は試験管内で数種の赤痢桿菌、緑膿桿菌、黄色ブドウ球菌、大腸桿菌、肺炎桿菌、変形桿菌、溶血性連鎖球菌にたいして成長抑制作用があり、チフス菌に対し強力な抑制作用がある。またタンニン質には収斂、止瀉などの作用があり、チェブリンは平滑筋にモルフィン様の鎮痙作用がある。訶子は収斂、止瀉、止血、鎮咳薬として咽喉結核、慢性咽喉炎、腸出血、痔漏出血、子宮出血、慢性子宮炎などに用いられる。また sennoside A が含有されており、緩下剤としても使用されることがある。
<u>Chebulinic acid</u> inhibits adrenalin-induced lipolysis in fat cells of rats, but enhances adrenocorticotrophic horomone-induced lipolysis and inhibits induced lipid peroxidation in the mifrosomes of rat liver cells.
<u>Chebulagic acid</u> inhibits induced lipid peroxidation in the mitochondria of rat liver cells, but enhances adrenocorticotrophic horomone-induced lipolysis in fat cells of rat.
<u>Corilagin</u>: In vitro antihepatotoxic activity due to enzyme inhibitory action on glutamine-pyruvic transaminase, and also inhibitory action on induced lipolysis in rat liver microsomes. It inhibits adrenaline-induced lipolysis in fat cells of rats.
<u>Pentagalloyl-β-D-glucose</u>: Antiviral activity against human immunodeficiency virus. It inhibits induced peroxidation in rat liver mitochondria and microsomes.

**重要文献**

牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

Gaind and Saini, *Ind. J. Pharm.* **27,** 145-147 (1965).

Gaind and Saini, *Ind. J. Pharm.* **30,** 233-234 (1968).

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 2d – Contraindicated in acute cough, acute diarrhea, and early stage dysentery. Notice: Tannins (25.0-30.0%)

The Complete German Commission E Monographs 無記載

**評価：C**

緩下剤としての作用があることが知られており、sennoside A の含有が明らかになっている。しかし、sennoside A の含量については報告がない。sennosides を含有する品目の食薬区分はその含量により判断されるべきであるから、今後の検討が必要である。

名称　カシュウ

他名等　ツルドクダミ
部位等　塊根（何首烏<カシュウ>）
備考　茎・葉は非医
学名（科名）*Polygonum multiflorum* Thunb. たで科(Polygonaceae)　タデ属
基原植物和名等　ツルドクダミ

医薬品としての使用実態があるか　Yes　局方収載
緩下剤として塊根 1 日量 10~20g に 800ml の水を加えて煎じ、2~3 回に分けて服用する。慢性胃腸炎には 1 日量 5~15g に 500~600ml の水を加えて煎じ服用する。主に漢方処方に配合される。
210 処方中の配合処方：1（当帰飲子）。その他、何人飲（張景岳方：何首烏、人参、当帰、陳皮、生姜）など
毒性データ（**LD50** 等）　RTECS に無し。
アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No
麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等
根にアントラキノン類のクリソファノール、エモジン、レインのほか 2,3,4'-テトラヒドロキシスチルベン-2-O-グルコシド、リポプロテイン、レシチン、タンニンなどを含む。
*ent*-Epicatechin、Piceid、Resveratrol、Rhaponticin

主要な生理活性
何首烏には降血脂作用、抗菌作用があることが知られており、またクリソファノールには腸管の運動を促進させる作用がある。緩下、整腸、強壮剤として、便秘、慢性胃腸炎、腰膝痛、遺精などに用いられる。
Piceid: antifungal and antibacterial activities. In addition, it inhibits deposition of lipid peroxides and cholesterol in injured liver of rats, similar to resveratrol (q. v.).
Resveratrol: antibacterial and antifungal actibities. Inhibits lipid peroxidation induced by ADP, NADPH in rat liver microsomes, and deposition of triglyceride and cholesterol, thus having a protective action and a lipid lowering activitiy.
Rhanponticin: antifungal activity against *Paelus schoreiuitzii.*

重要文献
牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 2d – Contraindicated with diarrhea; prepared root and stem may cause gastric distress; raw root is cathartic.

The Complete German Commission E Monographs には *Polygonum aviculare* のみ p.157

評価：**B**

局方に収載されているなど医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

名称　カスカラサグラダ

他名等

部位等　樹皮

備考

学名（科名）*Rhamnus purshiana* DC. くろうめもどき科(Rhamnaceae)　クロウメモドキ属

基原植物和名等　カスカラサグラダ(Cascara Sagrada)

医薬品としての使用実態があるか Yes

緩下剤として 1 回 2g、1 日 6g を常習便秘に用いる。流エキスまたは糖衣錠として緩下剤とする。

**毒性データ（LD50 等）**　RTECS に *Rhamnus* 属無し。

**同属植物**

*R. frangula* L. はヨーロッパ、中央アジアに分布し、幹皮（フラングラ皮）を同様に用いる。また *R. cathartica* L. の果実もラムヌス実として同様に用いる。

**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか**　No

**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか**　No.

主要な二次代謝産物等

アントラキノン類でカスカロシド A、B、C、D、バルバロイン、クリサロインのほか、脂肪油、タンニンなどを含む。新鮮なものはアントラキノールを含み、嘔吐を催すが、徐々に酸化されてアントラキノンに移行するため、半年～1 年以上経過したものを用いる。

アントラキノン類の含量はバルバロインとして約 5%である。

Chrysophanic acid 9-anthrone、ChrysophaNol、Physcion 8-glucoside

主要な生理活性

樹皮の少量を苦味健胃薬とし、量を増して緩下剤とする。

Cascaroside A: responsible for the cathartic action of *Rhamnus purshiana* bark.

Chrysophanic acid 9-anthrone: Fungicidal activity, and highly effective inhibitor of dermatophyte growth.

Chrysophanol: Activity against termites in teak wood. It is used as a natural dye.

Physcion 8-glucoside: Undefined physcion monoglucoside from Rheum palmatum (presumably 8-glucoside) exhibits cathartic activity.

**重要文献**

牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

Fairbairn, J.W. and Simic, S., *J. Pharm. Pharmacol.* **16,** 450-454 (1964)：アントラキノン類の含量

その他注意すべき点

アメリカ、ヨーロッパで一般に使用され、現在多くの国定薬局方に収載されている。

Botanical Safety Handbook, Class 2b; 2c; 2d – Contraindicated in intestinal obstruction, abdominal pain of unknown origin, or any inflammatory condition of the intestines (appendicitis, colitis, Crohn's disease, irritable bowel, etc.); and in children less than 12 years of age; not for long-term use in excess of 8-10 days.

The Complete German Commission E Monographs p.104

評価：**A**

瀉下作用を持つ anthrone 誘導体が 5%以上含有されている。

名称　カッコウ

**他名等**　カワミドリ、パチョリ
**部位等**　地上部（牧野和漢薬草大図鑑では全草、土藿香＜ドカクコウ＞、川藿香）
**備考**
**学名（科名）** *Agastache rugosa* (Fisch. et Mey.) O. Kuntze（カワミドリ，カワミドリ属），*Pogostemon cablin* Benth.（パチョリ，ヒゲオシベ属）　しそ科(Labiateae)
**基原植物和名等**

**医薬品としての使用実態があるか**　Yes 局外生規
頭痛、風邪、健胃に乾燥した全草 1 日量 7~20g を煎じて 3 回に分けて服用する。
210 処方中の配合処方：6（藿香正気散、香砂平胃散、香砂六君子湯、銭氏白朮散、丁香柿蒂湯、不換金正気散）
**毒性データ（LD50 等）**　RTECS に無し。
**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか**　？
**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか** No

**主要な二次代謝産物等**
*A. rugosa* は精油のメチルキャピコール（エストラゴール）、アニスアルデヒド(*p*-Anisaldehyde)、アルカロイド反応物質を含む。
*p*-Methoxycinnamaldehyde, Pachypodol
*P. cablin*はcinnamaldehyde, patchouli alcohol (sesquiterpene)を含む。

**主要な生理活性**
精油成分に健胃、発刊、止嘔作用があり、メタノール浸出液は皮膚癬菌に対し、比較的強い抗菌作用がある。方向性健胃剤、風邪薬などとして、食欲不振、消化不良、嘔吐、下痢、風邪などに用いられる。
*p*-Anisaldehyde: fungistatic acitivity. Its odour resembles that of coumarin (q. v.); it is used in perfumery and toilet soaps, and in organic syntheses.
Estragole: stimulates liver regeneration. It shows hypothermic and DNA binding activities. It is used in perfumes and as a flavour in foods and liqueurs.
*p*-Methoxycinnamaldehyde: herbicidal activity, and active against germination in *Abutilon avicennae* (Illiciaceae).
Pachypodol: antiviral activity.

**重要文献**
牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

**その他注意すべき点**

日本ではカワミドリは排藿香で、藿香ではないとされたことがあるが、中国の「薬材学」などではカワミドリを藿香として用いている。また、現在藿香として市販されているものは広藿香、つまりパチョリ *Pogostemon cublin* (Blanco) Benth. の葉または全草であり、広東省、海南島で栽培されるためこの名がある。

Botanical Safety Handbook, Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

**評価：B**

わが国で医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

名称　カッコン

他名等　クズ
部位等　根（葛根<カッコン>）
備考　種子、葉、花、クズ澱粉は非医
学名（科名）*Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi まめ科(Leguminosae)　クズ属
基原植物和名等　クズ

医薬品としての使用実態があるか　Yes 局方収載
感冒、神経痛などに、葛根1日量8~15gに水400mlを加え、半量になるまで煎じ詰めたものを3回に分けて暖めて服用する。ただし、汗をかきやすく、胃の弱い虚弱体質者には用いないほうがよい。
210処方中の配合処方：9（葛根黄連黄芩湯、葛根紅花湯、葛根湯、葛根湯加川芎辛夷など）
毒性データ（LD50等）
アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　No
麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか　No
主要な二次代謝産物等
根にでん粉、ダイジン、ダイゼイン、プエラリン、プエラリン-7-キシロサイドなどのイソフラボン誘導体、カッコネイン、プエラロールなどを含む。
(-)-Glycinol
主要な生理活性
葛根の水浸液は温刺ウサギに対して解熱作用がある。またダイゼインの量に比例してパパベリン類似の痙攣作用があり、他のイソフラボンにはこの作用はみられない。近年葛根から構造未詳のアセチルコリン様物質が確認され、また精油抽出物に副交感神経抹消刺激作用、消化器官賦活作用があることが発見された。葛根は発汗、解熱、鎮痙薬として熱性病、感冒、首、背、肩こりなどに用いられる。
(-)-Glycinol: Antifungal activity.
Puerarin: Hypotensive, and increases coronary resistance. The roots of *Pueraria lobata*, Radix pueraria, have long been used in china to relieve the symptoms of hypertension and angina pectoris.
重要文献
牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition
その他注意すべき点
Botanical Safety Handbook, Class 1
The Complete German Commission E Monographs 無記載
評価：**B**
わが国で医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。

名称　カバ

他名等　カバカバ、カワカワ、シャカオ

部位等　全草　（Botanical Safety Handbook では root, rhizome）

備考

学名（科名）*Piper methysticum* Forst. F. こしょう科(Piperaceae)

基原植物和名等　カバ

医薬品としての使用実態があるか　No

毒性データ（**LD50** 等）

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes

含む場合その化合物は

ピペルジンアルカロイド（pipermethystine）

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか　Yes

その場合の対象化合物等

kavalactones (desmethoxyyangonin, yangonin, dihydrokawain, kawain, dihydromethysticin, methysticin)

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

根は鎮静、興奮性麻酔作用があり、太平洋諸島で儀式などに用いられる。その他、強壮、鎮痛作用や泌尿器系の消毒作用がある。カワインには鎮静作用、抗不安作用があることが知られている。

5,6-Dehydrokawain: Anticonvulsive and anaesthetic activities.

Dihydromethysticin: Spasmolytic activity.

Kawain: Spasmolytic, local anaesthetic, anti-inflammatory, antimycotic and anti-oedemic activities.

Methysticin: Spasmolytic activity.

Yangonin: Spasmolytic activity.

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

Dharmaratne, H.R.W. *et al.*, *Phytochemistry* **59,** 429 (2002) : kavalactones の単離。

Dragull, K. *et al.*, *Phytochemistry* **63,** 193 (2003)　：地上部に pipermethystine が多い。

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 2b; 2c; 2d – Do not exceed recommended dose.

The Complete German Commission E Monographs p.156

評価：**A**

向精神作用を持つ kavalactones を含む。

## 名称　カラバル豆

**他名等**

**部位等**　豆

**備考**

**学名（科名）** *Physostigma venenosum* Balfour まめ科(Leguminosae)　フィゾスチグマ属

**基原植物和名等**　フィゾスチグマ・ベネノスム

医薬品としての使用実態があるか　Yes?

硫酸フィゾスチグミン、サリチル酸フィゾスチグミンなどの医薬品の製造原料に用いる。これらの医薬品は副交感神経作用薬として手術後の排尿困難や腸麻痺、筋無力症に用いるほか、眼科領域で緑内障、角膜炎などに用いる。またアトロピン、クラーレ、ストリキニーネなどの中毒に対する解毒薬でもある。

**毒性データ（LD50 等）**

アルカロイド、**毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか** Yes

含む場合その化合物は

アルカロイド約 0.5%を含みフィゾスチグミン（エゼリン）を主成分とする。

Physostigmine の LD50: 7.1 μg/kg – 20 mg/kg

**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか**　No

主要な二次代謝産物等

アルカロイド薬 0.5%を含みフィゾスチグミン（エゼリン）を主成分とする。アルカロイド以外にはでん粉、タンパク質などを含む。

Eseramine, Eseridine, Physostigmine, Physovenine, Stigmasterol

主要な生理活性

フィゾスチグミンは、コリンエステラーゼを阻害することにより、コリン作動性神経に対し興奮作用の増強を起こす。縮瞳、胃腸運動亢進、骨格筋収縮などの作用を示すほか、中枢神経を興奮させる。

Eseramine: Anticholinesterase, with activity similar to but weaker than that of physostigmine (q. v.).

Eseridine: Anticholinesterase, with activity similar to that of physostigmine (q. v.). It is used for treating gastro-intenstinal disorders and chronic.

Physostigmine: Anticholinesterase. It has wide ranging parasympathetic activity when taken internally, and may be used to counteract the effects of anticholinergics such as atropine (q. v.). Large doses can be fatal. The main use is in the form of eye drops as a miotic.

Physovenine: Anticholinesterase. It is similar in activity to physostigmine (q.v.), but not in clinical use.

Stigmasterol: Plays a vital structural role in the membranes of plant cells.

**重要文献**

牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

その他注意すべき点

カラバル豆およびそこから製造される医薬品は、いずれも作用が強いので取り扱いに注意を要する。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：**A**

毒性の強い physosotigmine を含む。

名称　カロコン

他名等　オオカラスウリ、キカラスウリ、シナカラスウリ

部位等　根

備考

学名 (科名)　*Trichosanthes bracteata* Voigt (オオカラスウリ), *T. kirilowii* Maxim. var. *japonica* (Miq.) Kitam. (= *T. japonica* Regel.) (キカラスウリ), *T. kirilowii* Maxim. (シナカラスウリ)　うり科 (Cucurbitaceae)　カラスウリ属

基原植物和名等　キカラスウリ

医薬品としての使用実態があるか　Yes 局方収載

解熱、鎮咳に、栝楼根 1 日量 3~5g を 400ml の水で煎じ、2~3 回に服用する。去痰、喘息の咳に、栝楼仁 1 日量 6g を 500ml の水で服用するとよい。

210 処方中の配合処方：2（柴胡去半夏加栝楼湯、柴胡清肝湯）

毒性データ（**LD50 等**）　RTECS に無し。同属も＞500 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes

含む場合その化合物は

Trichosanthin: LD50 = 5.9 mg/kg (mouse, subcutaneous)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか　No

主要な二次代謝産物等

根に多量のでん粉のほか、シトルリン、γ-アミノ酪酸、トリコサン酸、アルギニン、コリン、スティグマステロール、□-シトステロール、種子にリノール酸、リノレイン酸などが含まれる。

主要な生理活性

栝楼仁には抗癌作用のあることが報告されている。臨床的に、根に止渇、解熱、催乳、鎮咳など、種子に解熱、去痰、鎮咳などの作用が認められており、解熱、止渇、消腫薬として咽喉痛、呼吸器病の解熱、口渇、去痰などに用いられる。また根から得られたでん粉を天花粉と呼び、小児の皮膚病や汗知らずなどに外用される。

Trichosanthin:　Abortfacient used clinically in China.

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑、Phytochemical dictionary 2nd Edition

Maraganore, J.M., *J. Biol. Chem.* **262,** 11628-11633 (1987)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 1 / Note: Chang and But report rare cases of mild diarrhea and gastric discomfot.

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：**A**

毒性タンパク質である trichosanthin を含む。

名称　カロライナジャスミン

他名等 Yellow Jessamine
部位等　全草
備考
学名（科名）Gelsemium sempervirens Ait. (Loganiaceae)　マチン科
其原植物和名等

医薬品として使用実態があるか　Yes　Com E
毒性データ（LD50 等）　oral child　LDLo 7.4 mg/kg;　G. elegans: 25mg/kg i.p. mouse
アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか　Yes
含む場合その化合物は
ゲゼルミン等　Gelsemicine/Gelsemine/Sempervirine　Indole alkaloid含有
麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか
主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点
ComE: because of tge narrow therapeutic range, numerous intoxications have occurred, some with fatal consequences.
Botanical Safety Handbook　なし

評価 A
有毒アルカロイド（Gelsemicine/Gelsemine/Sempervirine:Indole alkaloid）を含み、子供への経口無作用量が (LDLo) 7.4 mg/kg である。